湊川隧道保存友の会会報 てんちょうちきゅう 第10号
発行日　平成 23 年3月1日
発行者　湊川隧道保存の会会長　吾妻　義信

左の写真は、吐口側坑門に掲げられた小松宮彰仁親王による扁額です。

「湊川隧道」雑感

湊川隧道保存友の会　会長　吾妻　義信

平成13年7月7日に設立した湊川隧道保存友の会は、今年で活動十周年を迎えることとなります。　ご存知のとおり、阪神・淡路大震災の後、新湊川の災害復旧助成事業によって新湊川トンネルが完成し、湊川隧道はその役割を終えることとなりました。しかし、近代土木遺産である湊川隧道の歴史的、技術的な価値が評価されるとともに、この隧道を「地域の宝」として守っていきたいという我々地元住民の熱意と行政の方々のご支援により、先人の偉業湊川隧道は、その姿を後世に留めることとなりました。幼い頃には遊び場でもあり、また長年にわたって水害から地域を守ってきた湊川隧道の保存決定に、地域住民が大きな喜びを感じたことが昨日のことのように思い出されます。

当会では、設立以来湊川隧道を単に保存するだけではなく、積極的に活用することを通じて、地域の魅力を高める活動に取り組んできました。定期的な一般公開に加えて、隧道内でのミニコンサート、講演会の開催などを継続的に続けてきた結果、昨今は、様々なメディアで湊川隧道と当会の活動が紹介されるようになりました。かつては一般公開を行っても、見学に来られる方が少ないこともありましたが、現在では、見学者が100名を超えることもしばしばあります。一方で、数多くの見学者の安全を確保することが大変重要であると認識されるようになり、昨年１月には、「文化財防火デー」に合わせて兵庫消防署とともに防火訓練も実施したところです。

こうした当会の活動が全国的にも高く評価され、平成21年3月には、国土交通大臣表彰「手づくり郷土（ふるさと）賞」を受賞しました。これも日頃より熱心に活動に取り組んでいただいている会員の皆さんと、我々と連携を図り様々なかたちで協力をいただいている神戸県民局神戸土木事務所、新湊川を守り育てる会、兵庫区北西部まちづくり協議会、地元各自治会、周辺の商店街の皆様のおかげであると深く感謝をしております。

これからも、当会の活動を支援してくださっている皆様への感謝の気持ちを忘れることなく、湊川隧道を活かした地域の魅力づくりに一層励んでいきたいと考えていますので、今後とも引き続きご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、当会の設立以来、約7年間の長きにわたり会長を務められ、我々をご指導いただいている神戸大学の神吉和夫先生に心より感謝を申し上げます。

「天長地久」第10号発行記念特別寄稿

随想・湊川の原体験と隧道の保存

田　辺　眞　人

幼稚園に入る前の年つまり昭和二十六年から大学一年の昭和四十二年まで、私は湊川町十丁目に住んでいた。そのころの私にとって、日常生活の中で最も身近な風土が湊川と会下山であった。

会下山幼稚園に通っていたころは、熊野橋から夢野二丁目で西に曲がって長田に行くバス路線はなく、新開地から北上する三番の市バスは熊野橋で西に曲がって川の北側沿いに湊川隧道の呑み口の上まで進み、そこからはいわゆる葬連道を登って菊水町十丁目に出、房王寺から長田に向かっていた。湊川隧道の呑み口と十丁目の間に菊水町九丁目というバス停もあった。電気冷蔵庫など無い時代だったから、市場籠を持って毎日食材を買いに出かける母とともに、自宅から神戸電鉄沿いの道を湊川隧道の呑み口まで下り、川の南側を丸神市場に向かい、東山商店街から湊川市場と買い物をして神戸銀行東山支店の脇を抜けて、川崎のプールの北の道から葬連道を登って帰宅するのが日課だった。このために、敗戦直後の隧道の呑み口のすぐ上流が、私にとっての湊川の原点である。当時、ごみの分別などという意識は程遠く、荒ごみを川の中に投棄する人が後を絶たず、ことに七夕の後などは川底は捨てられた笹飾りであふれていた。

私はベビーブーム初代の昭和二十二年生まれだから、近所は同年代の子供であふれていて、二十九年に鵯越小学校に入学した。通学ルートのせいで、毎日湊川を眺めるということはなくなった。そのころ鵯越小学校では教室が足りず、一週置きに朝行きと昼行きがあって一つの教室を二組が使う、二部授業が行われていた。当時の保護者は貧しいながら健気なもので、市だか学校だかの呼びかけに応じて毎月授業料以外に校舎建設のための費用を積み立てていた。私は今も、領収印が押されたその集金袋を持っている。やがて資金も溜まったとみえて、鵯越小学校に分校が建つことになった。敷地は東山病院の跡地だった。この病院は戦前に、伝染病患者を隔離するために建てられていた施設だったから、今ならそのような施設の跡に学校を建設するというだけで、激しい批判にさらされることだろう。当時流行りの円形校舎が建てられ、私が四年生になった昭和三十三年に分校は完成し、一番長く建設費を積み立てたということで四年生全員が分校に通うことになった。そこで、また毎日湊川を眺めながら通学することになった。腕白な小学生の中に、川原に下りて隧道を反対側の出口まで行った者がいるというようなうわさを聞いたのはそのころのことだった。分校の対岸あたりからトンネルを見通すと、暗やみのずっとむこうに小さく明るい出口が見えていたものである。五年生になると鵯越の本校に戻ることになり、その一年後だったと思うが、鵯越小学校東山分校は神戸市立東山小学校として独立していった。

小学校高学年から夢野中学校時代は、毎日湊川を見るという生活ではなくなった。ただ、祖父が戦前に川崎造船所で潜水艦建造に従事していたころの部下だったという人が湊川の上流、石井川の谷に住んでいて、私を可愛がってくれた。夏休みなどに、烏原の水源地に通じる「五十段」や「掘り割り」の山道、不思議な「コンクリ橋」一帯など石井川の上流によく連れていってもらった。ただ、その近くにあるはずの「チリンチリン」や「カランカラン」には行ったことがない。危険だからと、学校で行くことが禁じられていたからである。このような場所、場所は私にとって、非日常的な湊川の秘境であった。

湊川が私にとって再び日常的な風景になったのは、高校に入ってからだった。兵庫高校への通学で、また三年間、毎日湊川を眺めることになった。ただ、その湊川は隧道のはけ口下流の湊川だった。歴史に興味があり古めかしい建造物に関心のある私は、立派な煉瓦作りの隧道のはけ口を眺めながら家に帰るのが好きだった。なぜ、こんな不思議なトンネルがあるのかと思ったものだった。神戸の歴史を勉強するようになって、明治後期に新湊川建設でこのトンネルが作られたと知るのは、少し後のことであった。

大学生になって間もなく転居して、日常的に湊川に接することはなくなったが、こんな原体験があったから、神戸の歴史地理を研究するようになっても、「湊川」には格別な思いを抱いていた。そんな中で、阪神淡路大震災があり、その復旧工事に際して湊川隧道に代わる新しい拡張バイパストンネルが掘られた。旧隧道をどうするかという検討委員会のメンバーに加えていただいたことは幸甚だった。議論の中で、旧隧道を埋め戻す案や一部を輪切りにして会下山にモニュメントを作るという案に反対し、私は全面保存を主張した。湊川隧道の文化財的な価値を理解はしていたが、それ以上に私の主張のその背景には、このような幼児期からの湊川や隧道への主観が働いていたことも正直言って認めなければならない。

それでもともかく、隧道は遺され、周辺地域住民を中心とした湊川隧道保存友の会の手で管理され、兵庫県や土木関係者各位のご支援で活用の実績を積み重ねてきた。湊川隧道の十年に関わられたすべての皆様に、あらためて謝意と敬意を表したいと思う。

田辺先生のプロフィール

園田学園女子大学名誉教授。1947年(昭和22年)神戸生まれ。関西学院大学卒業。1986～91年はニュージーランド教育省、国立マッセイ大学に勤務。地域史研究に対して神戸市文化賞や兵庫県文化功労者表彰・ロドニー賞などを受ける。現在、ラジオ関西の番組「おもしろ神戸楽」学長を務める。著・　監修書に「神戸の伝説」「神戸市今昔写真集」、共著書に「兵庫県の農村舞台」「宝塚市大事典」「神戸人物史」など。
「湊川隧道保存友の会」顧問。

湊川隧道ミニコンサート、この１年（その１）

ピアノ・歌

日　　時：平成22年３月20日（土）
グループ名：あんだんて

時代の風とともに
その空間に立った瞬間、「時代」を歌いたいと思った。
場所と音響の確認に一度行ってみた。にぎやかな市場からバス通りに出て川沿いに歩く。と、突然、レンガ造りのトンネルの入り口に出くわす。そして、そこに足を踏み入れたとたんに世界は一変するのだ。ゆっくりと下っていくとだんだんと辺りは暗くなり、足元に薄く水が流れる。そして、ライトに照らされた小さなステージがある空間が現れた。立て板で仕切られたさらに向こうが、まるで過去へのタイムトンネルのように感じる。ステージに立って、今来た入り口に向かい声を出すと、まるでタイムトンネルの過去に向かって声が流れていくように思えた。その時に「時代」(中島みゆき)の歌を思ったのだ。そして本番。入り口から入る冷たい風が、私の声を過去に向かって運んでいくのを感じながら歌っていた。（佐々川　秀子）

木管五重奏

日　　時：平成 22 年４月 17 日（土）
グループ名：ゴレンジャークインテット

隧道の外は４月になり、ようやく暖かくなってきていましたが、隧道の中は、ひんやりしており肌寒く感じられました。隧道に入っていくと、暗闇の中にスポットライトが当てられたステージが見えてきました。その奥は、光が隧道の中心に向かってFade outしている、なんとも不思議な光景が広がっていました。演奏は今回で２回目になりますが、この隧道の不思議な残響は格別です。音が遠くに吸い込まれますが、非常に良いバランスで残響があります。演奏する音を邪魔しない嫌味のない天然の残響です。いろんなホールで演奏しましたが、ホールでは味わえないものです。この隧道で演奏することは私たちも楽しみにしております。保存の会関係者皆様のご努力に敬意を表します。（高橋　夏樹）

クリスタルボウル

日　　時：平成 22 年５月 15 日（土）
グループ名：花音

私たち「花音」は、アルケミークリスタルボウル演奏ユニットとして、２００８年よりコンサート活動を続けています。クリスタルボウルとは、水晶でできたボウルで、心地よい響きは、身体と心をほぐし心身を癒してくれます。クリスタルボウルの音色と湊川隧道に敷き詰められた煉瓦と床の木のぬくもり・・・そしてこの日、高野山からかけつけてくださったベロニクさんのボイスが共鳴して、幻想的な空間に暖かい音色が広がりました。この日は、朝日放送の取材も入り、多くの方々がお越し下さいました。皆様から「とても感動しました。」と嬉しい感想をたくさん頂きました。貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。そして、このすばらしい湊川隧道を一人でも多くの方々にお伝えできればと思っております。湊川隧道保存友の会の皆様に心より感謝申し上げます。

クラリネット

日　　時：平成 22 年６月 19 日（土）
グループ名：新暁子・酒井舞子・中平沙希

今回で二回目となる湊川隧道でのミニコンサート。一昨年、初めてここで演奏させて頂いた時の衝撃は今も忘れません。神秘的な空間、そしてその空間での音の響きが、普段私たちが演奏している会場とは違う不思議な響きを感じたこと。そんなことを思い出し、ワクワクしながら当日を迎えました。今回は、クラリネットアンサンブルグループのうちの三人で演奏させて頂きました。他の二人は今回が初めてでしたが、私たちの音がトンネルの壁に反射しながら奥行き方向に抜けてゆく絶妙な音響効果に感激していました。トンネル内のひんやりとした空気を感じないほど熱い想いで演奏でき、心地よいステージになったと三人とも自己満足しています。前回同様、たくさんの方々にご来場頂き、現場の方々の温かさに触れ、改めてここで演奏させて頂いたことに感謝の気持ちでいっぱいです。楽しく幸せな一時を、ありがとうございました。（中平沙希）

湊川隧道ミニコンサート、この１年（その２）

三線・エイサー

日　　時：平成 22 年７月 17 日（土）
グループ名：美（ちゅ）らさんず

隧道ってどんなとこ？で　　恐れ恐れ足を踏み入れてビックリ　外の射すような暑さと打って変わって　上着が欲しいくらいヒンヤリ　想像を絶する今まで見たことない　巨大な煉瓦の構築物にただただ圧倒　歴史の重みと保存友の会の方々の長年にわたる努力の結晶と聞かされ　ここで演奏させていただくんだ～と妙に興奮しました
私たちは三線演奏とエイサーを通して　デイサービスや各地域でのイベントなどに出演させていただき爽やかで元気な沖縄の夏をお届けできたらと頑張っております　当日はサンＴＶの収録もあり思い出深い一日を体験させていただきました　ありがとうございました

歌・ギター

日　　時：平成 22 年８月 21 日（土）
グループ名：まるしん

僕達は神戸を中心に音楽活動を行っている、幼馴染み３人組です。メンバー３人が同じ中学・高校の出身であり、その学校名の頭文字を合わせたことが「まるしん」というグループ名の由来です。また、「まるしん」とは老若男女すべての人に愛されるように、人間関係に角が無く「丸い心」という僕達の音楽活動の想いと重なります。隧道でコンサートという話を初めてお伺いした時、もちろん初めての事でしたので、期待もございましたが、当日どうなるのかと不安の方が大きかったです。しかし、当日訪れてみると、近代土木遺産の作り出す空間が、まさに「神秘的」で自然の大ホールのように思いました。僕達の音楽、そして出会いも天長地久であることを願い活動していきます。

フルート・ケーナ

日　　時：平成 22 年８月 28 日（土）　13:30 ～
グループ名：木原ファミリー

「湊川隧道」の存在を、出演の話が決まるまで知らないメンバーがほとんどでした。10人程での演奏予定が、「私も」「私も」と希望者が増え、断りきれず隧道始まって以来の大人数での演奏となりました。隧道内は外気より10度以上低くかったはずですが、緊張のため、汗をかいていたと思います。当日は、湿度が高く、楽器がフルートとケーナでしたので、ちゃんと音が出るかとても不安でした。演奏後、皆様から暖かい拍手をいただき、それまでの不安はどこへやら、とってもいい気分になり、「機会があれば･･･」と、話しながら帰ったのが昨日のようです。
追記：演奏を一番いい音色で聞けるのは、実は出入り口付近ではないかと思います。

ケーナ

日　　時：平成 22 年８月 28 日（土）14:30 ～
グループ名：福岡　良一

子供たちも独立し仕事も家庭も一段落した時が、以前から興味をもっていたケーナをはじめるきっかけでした。あれから５年、ボランティア活動として色々なところで演奏させていただいていますが、霧の立ち込める幻想的なトンネル内での演奏は、まるで地底の別世界のようでした。レンガ造りの壁にかこまれた空間で、これを構築された技術者の熱い思いを肌に感じながら、めったにできない体験をさせていただきほんとうに有難うございました。

湊川隧道ミニコンサート、この１年（その３）

キーボード

日　　時：平成 22 年９月 18 日（土）
グループ名：そらいろ楽団

私たちは、ふだん介護施設やコミュニティーイベントなどでコンサートをさせていただいているのですが、今回の隧道コンサートは、印象深いコンサートの一つになりました。隧道内は夏でもヒンヤリしており幻想的で、それでいてノスタルジックな雰囲気が漂っていました。アーチ型の壁にシンセサイザーの音がきれいに響いて不思議な世界が生まれ、心地よく楽しく演奏をすることができました。それにしても演奏中に水滴が落ちてくるなんてハプニングも最初で最後の経験でしょうね（笑）。素敵なイベントを企画していただいた保存友の会の皆様、本当にありがとうございました。

弦楽四重奏

日　　時：平成 22 年 10 月 16 日（土）
グループ名：アマローネ・カルテット

２年振りに、ミニコンサートに出演させて頂きました。こちらに訪れると、初めて湊川隧道に入ったときの感慨が蘇ります。煉瓦と自然石による、ほの暗い地下空間は、まるで自然の創り出した洞窟のなかにいるようです。そして自然のふところに抱かれながら、聴きにきて頂いた皆さんと音楽を共有することの喜びを新たにしてくれます。これも湊川隧道と、これを大切に見守り続けておられる方々のお陰です。ありがとうございました。(谷口　浩)

フルート

日　　時：平成 22 年 11 月 20 日（土）
グループ名：南部やすか・大鶴華子・曽我香織

フルート2本とユーフォニアム。まるでこのアンサンブルのために作られたような素敵な響きの中での演奏を楽しませて頂き、ありがとうございました。神戸の新しい魅力を知るとともに、この時空を超えた空間に音楽という形で触れることが出来、嬉しい機会でした。神戸在住の演奏家として、これからもこの街の魅力を音楽を通して伝えられるような活動をしてまいりたいと思います。そして、素晴らしい体験をさせて頂いた湊川隧道が、今後ますます親しまれ、神戸の大切な財産として継承されることを願っております。

オカリナ

日　　時：平成 22 年 12 月 18 日（土）
グループ名：鵞鳥クラブ

鵞鳥クラブは総員１９名、全員がしあわせの村にあるシルバーカレッジの卒業生です。カレッジではもともと山陰地方の民俗芸能「銭太鼓」をクラブ活動でやっていましたが、ボランティア活動をやっているうちに、もう一つレパートリーを拡げようとオカリナを始めました。月２回東山町の新湊川ふれあい会館で練習しています。今回のコンサートは地元小学校の生徒さんたちにクリスマスソングを歌ってもらい、その後ろでオカリナを演奏しました。地元のひとたちも大勢来ていただき、なごやかなクリスマスコンサートになりました。

三味線

日　　時：平成 23 年2月 19 日（土）
グループ名：ねこ

私たちは、長唄を中心に、はうた、民謡、童謡、歌謡曲と、色々なジャンルの曲を毎週楽しく稽古しています。この度、初めて隧道のコンサートに参加させて頂くことになりました。普段の稽古と同じように、来て頂いた方々にも、いろんな曲を一緒に楽しんで頂く会になればと思い、みんなで歌える曲も入れて、２時間近く続けて演奏させていただきました。来て下さった方が、ご存知の歌を一緒に口ずさんで下さって、とても楽しく演奏させて頂くことができました。トンネルの中という独特な雰囲気の中での演奏で、音の響きもとても良くて、いい経験をさせて頂いたと思っております。お世話して下さった方々、そして聴きに来て下さった方々、本当にありがとうございました。

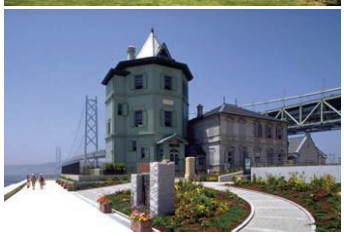
神戸県民局からのお知らせ

魅力アップした舞子公園へお越し下さい

【概要】

舞子公園は、古来より「白砂青松」の景観が特徴で、阪神間からの保養地としても知られた、県下第１号の県立都市公園(明治 33 年指定)です。このような歴史を持つ公園周辺では時代とともに開発が進み、近年では世界一の吊り橋「明石海峡大橋」が整備されるなど、公園周辺の景色や公園自体も様変わりしてきました。そしてこのたび、公園内に明治・大正・昭和そして和洋中の趣をもった歴史的建築物群が復元・整備されたことをご存知でしょうか。

湊川隧道（明治 34 年完成）と同時期に誕生し、ともに神戸の歴史を見てきた魅力溢れる舞子公園に是非お越し下さい。



【各館紹介】

●旧武藤山治邸－旧鐘紡舞子倶楽部－

旧武藤山治邸は、鐘紡の中興の祖と言われ、衆議院議員としても活躍した武藤山治が明治 40 年に舞子海岸に建てた住宅です。明石海峡大橋建設に伴う国道２号拡幅工事のため、和館等は解体され、洋館のみ垂水区狩口台に移築されていました。兵庫県は平成 19 年に寄贈を受け、建物の縁の地である舞子公園に移築復元を行いました。

●旧木下家住宅

旧木下家住宅は昭和 16 年から 18 年にかけて建てられた数寄屋造近代和風住宅です。阪神・淡路大震災後、姿を消しつつある阪神間の和風住宅の中で、創建時の屋敷構えをほぼ完全に残す貴重な建物として、平成 13 年に国の登録有形文化財に登録されました。兵庫県は平成 12 年に寄贈を受けた後、保存修復工事を行い平成 21 年より一般公開しています。

●孫文記念館（移情閣）

移情閣は中国人実業家・呉錦堂の別荘を前身としており、ここに賓客を迎えるため大正４年に八角三層の移情閣が建てられました。明石海峡大橋建設に関連した国道２号拡幅に伴い平成 12 年に現在の場所に移築･復原され、平成 13 年に国の重要文化財に指定されました。

【入館案内】

開館時間：１０：００～１７：００（旧木下家住宅は、１２月～２月　１６時まで）
休 館 日：月曜日（祝日の場合は翌日休館）、年末年始
入 館 料：

施設名	区分	料金（団体※20 名以上）
旧武藤山治邸	大人	100 円（80 円）
	高校生・高齢者(65 歳以上)	50 円（40 円）
旧木下家住宅	大人	100 円（80 円）
	高校生・高齢者(65 歳以上)	50 円（40 円）
孫文記念館（移情閣）	大人（高校生以上）	300 円（200 円）
	高齢者(65 歳以上)	200 円
	小人（小中学生）	150 円（100 円）
※便利でお得な『３邸めぐり入館券』も販売しています　大人４００円		

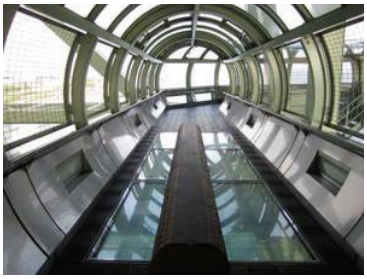
【イベント案内】

舞子公園では、３館の特徴を活かした様々なイベントを行っています。
最新情報は、舞子公園ホームページでお知らせしています。
http://www.hyogo-park.or.jp/maiko/

歴史的建築物の他にも見所が一杯です！

●海上プロムナード

明石海峡大橋の橋桁を利用した空中遊歩道です。
海面から高さ約 47m もあり明石海峡を一望できる迫力満点の施設です。
開館時間：９：３０～１８：００(ゴールデンウィーク・夏休みは 19 時まで)
休 館 日：第２火曜日（祝日の場合は翌日休館）、年末年始
入 館 料：



区分	料金（団体※20 名以上）	
大人	土･日･祝日	300 円（240 円）
	平日	240 円（200 円）
高校生・高齢者(65 歳以上)	土･日･祝日	150 円（120 円）
	平日	120 円（100 円）

地域の紹介⑥

会下山ラジオ体操会

会下山ラジオ体操会は、神戸の街が一望できる会下山公園の山上広場で毎日早朝にラジオ体操を行っています。昭和33年７月に東山町２丁目の大石愚一様一家と近所の方々25名で始められ、今年の７月には53周年を迎えます。ラジオ体操を始めた頃の会下山は、ハゲ山で寂しい山でした。ラジオを聞く電源も無いため、大石様の自動車のラジオを聞いて体操をしていました。その後、神戸市の支援や会員の方よりの寄附で、電気・水道設備・休憩所・国旗掲揚塔などが整備されました。現在の会員数は210名強で、毎朝のラジオ体操への参加者は、冬季で120～140名、暖かくなって来ると170～200名となります。

この間の熱心な活動に対して、兵庫県くすのき賞（S49年）、簡易保険60周年記念郵政大臣全国団体表彰（S51年）、NHK・郵政省全国優良団体表彰（S61年）を受賞しました。また、昭和51年８月29日と、平成８年１月17日に会下山のラジオ体操状況が、NHKに生放送されました。以下、平口正治会長のお話を紹介します。

「現在30名の役員が６班に分かれ、週交代で当番制を敷いて運営しておりますが、何分にも高齢化により厳しい状況での運営となっています。全てボランティア精神での自己犠牲にたよるモノであるとは云いながらも、役員みんなは、仲良く、楽しく、健康第一をモットーに、これからも地域での健康作りの一助として、頑張ってゆきたいと思っております」

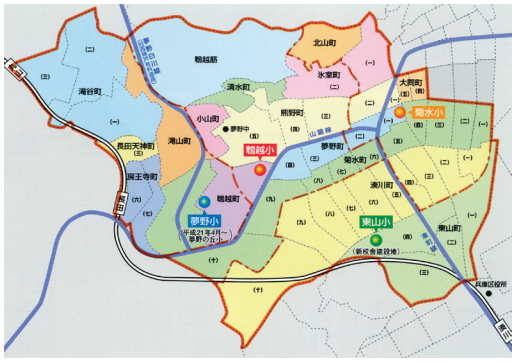
夢野の丘小学校の新校舎

平成21年（2009）4月、菊水・鵯越・夢野・東山の4小学校が統合され、夢野小学校校舎を使用して「夢野の丘小学校」が開校しました。４校は大正から昭和にかけて設立し（菊水；大正９、鵯越；昭和３、夢野；昭和48、東山；昭和33）、全児童数は昭和30年頃には3500名を超えていましたが、その後は減少を続けてきました。このため統合推進委員会を中心に、学校、地域、ＰＴＡなど多数の関係者によって平成19年頃から統合に向けた準備が進められていたものです。

東山小学校の円形校舎

平成23年1月7日から、約700名の児童は東山小学校地にできた新校舎で学び始めています。新校舎は、耐震性を備えた重厚な外観と暖かい色調の外壁で、小学校とは思えないようなデザインです。また、屋上のソーラーパネル、ピロティ方式のプール、コンピューター室など最新の施設が整備され、多目的ホールが設置されて地域の人々にも使用できるよう配慮された新しい教育環境になっています。今後、夢野の丘小学校が、4校の伝統を受け継ぎ、校名に込められた願いである「子どもたちが夢を持ち、夢に向かって成長する学校」として、日本の次世代を担う人材が育成される場として充実、発展することを願っています。

校舎の全景(北側)と多目的ホール



校区図

湊川流域歴史物語（最終回）

流域のため池、山あいの湖水のような獅子ヶ池

田辺　眞人（園田学園女子大学名誉教授）

苅藻川は、明治34年に旧湊川の付替えによって新湊川の流域とされることになったが、その後、大正から昭和の時代にかけて旧苅藻川沿川は急速に市街化が進み流域の土地利用は激変する。その中で特に著しく姿を消したものに「ため池」がある。

東西に連なる六甲山地と大阪湾岸にはさまれた旧市街地のうち、長田は最も平地が広い地域であり、弥生時代から農耕が発展して長い大きな田が開かれていたため、『日本書紀』が「長田ノ国」と記したのであろう。これら平地での稲作は、主に苅藻川の水を使っていたが、土地の傾斜のために平ぜい水の少ない神戸地域では、多くのかんがい用水のため池が作られてきた。これらのため池は市街化に伴い宅地や学校用地として埋め立てられてきたが、明治以来の地形図を比較すると、その移り変わりを知ることができる。ちなみに、ため池の数は、明治19年の地形図では大小約40数えるが、大正14年の地形図では約20にまで減り、太平洋戦争前までにはほとんどが埋め立てられて姿を消している。

さて、このように変貌した苅藻川流域のため池事情の中で、現在までしっかりその姿をとどめる池が、「鹿松峠」にある「獅子ケ池」である。苅藻川の支川大日川と妙法寺川との分水界の鞍部に位置するこの池は、広さが約４ヘクタールで、周囲の山の高まりが小さく開放的で今でも野鳥や水鳥の集まる緑豊かな水辺空間となっている。この「獅子ケ池」は長年にわたる不法投棄物やゴミなどで自然環境が荒らされていたが、近年、地元では「獅子ケ池を美しく会」を結成し、市民が親しめる場にしようと池周辺の清掃や植樹が行われ整備されている。こうした活動が評価され、平成20年度「手づくり故郷賞」（国土交通大臣表彰）を「湊川隧道保存友の会」とともに受賞している。

高取山の北、苅藻川の谷と妙法寺川の谷を結ぶ鞍部は古くからの交通路で、「鹿松峠（カノシシマツ）」と呼ばれていた。このカノシシマツ峠はやがてシカマツ峠と略されて、今は近在の町名になっているが、池の名はカノシシのシシを残したものなのであろう。

明治・大正の地形図では「シシュー池」と表記されており、『摂津国八部郡地誌』ではシシュー池は妙法寺村の池と記録されている。江戸時代になって妙法寺の村民が、周辺のかんがいのために築いたため池であろう。このような経緯からこの池の地番は現在でも須磨区内である。いずれこのため池の用水から妙法寺村の田をかんがいしていたはずの用水路を確認してみたい。ただ、池からの余水は、現在では明らかに大日川を経て苅藻川に流れる構造になっているので、新湊川流域としていいだろう。

ところで、この「獅子ケ池」が昭和30年頃、遊泳や貸ボートで賑わっていたことを知る市民は少ない。前述のボランティア団体による積極的な取り組みで、多くの市民が身近に憩える場として再生されることを願っている。

湊川隧道について（最終回）

湊川隧道という名称について

佐々木良作（㈱建設技術研究所）

現在の「湊川隧道」は、震災で被災した新湊川の災害復旧事業で新しいトンネル（新湊川トンネル）が完成するまで「会下山トンネル」と呼ばれていた。明治期に旧湊川の付替えで築造された隧道は‘会下山を抜いているトンネル’ということで、いつの頃からか会下山トンネルと呼ばれてきたのであろう。神戸市史にも、‘会下山隧道’、‘会下山トンネル’と表記されている。以下、この会下山トンネルを湊川隧道とするようになったいきさつを紹介する。

会下山トンネルは、新しいトンネルが完成すれば内部が埋め立てられる計画だった。しかし、当時、震災によって歴史的に価値のある土木、建築構造物が壊滅的な被害を受け、復興過程でその姿が次々と消えていく中にあって、学識者や専門家から少しでも残し伝えていくことの重要さを指摘する意見も出されていた。また、文化財法の改正で、近代化遺産などを対象に「有形登録文化財」として登録する制度もできていた。神戸土木事務所もこうした背景を考慮し、平成 12 年 2 月に「会下山トンネル保存検討委員会」（委員長；西田一彦関西大学教授）を設置した。委員会では、会下山トンネルの技術的、系譜的、意匠的価値などが評価され、歴史遺産として保存すべきとの提言が出された。

実は、この委員会の審議過程で、今後は会下山トンネルを湊川隧道に、新たに完成するトンネルを新湊川トンネルとすることが了承された。その理由は、震災直後に撮影された一枚の写真が根拠になっている。地震直後、会下山トンネルの一部区間を補強する工事が行われ、トンネル中ほどの側壁に填められていた２枚の銘板（左右岸に各１枚、大きさは縦約 50cm・横約 80cm。材質は花崗岩と思われる。）が撮影されていた。このうち一枚の銘板には「湊川隧道」として隧道の諸元や工期が刻まれている。湊川改修株式会社の関係者にすれば、付替えた河川も湊川であるからその湊川にある隧道を湊川隧道としていたのである。新湊川は、その後に付けられた河川名であるが、新しい湊川であるから新湊川と呼ぶようになるのは自然のなりゆきであろう。ちなみに開港 30 年史では、付替えの区間は「新・湊川」と表記されている。

もう一つの銘板には文字の一部が判読できないものの湊川を付替えるにいたった経緯などが紹介されている。これら銘板は補強工事のために吹き付けられたモルタルの中に埋没して、現在では見ることができないが、これら写真のおかげで１世紀を過ぎて本来の名称で呼ぶことができるようになった。なお、２枚の写真は、パネルにして隧道内に展示されている。一度じっくりご覧いただきたい。

「湊川隧道保存友の会」１０年間の主な活動記録

（「湊川隧道と共に歩む」p19の主要年表に追記）

年度	月日	項目	内容
平成12年度（2000）	12月10日	新湊川トンネル現場見学会	「新湊川トンネルウォーキング」にて「湊川隧道保存友の会（仮称）へのお誘い」のチラシ配布
	3月18日	発足準備講演会	講演；神吉和夫(神戸大学工学部)「湊川隧道～神戸を代表する近代土木遺産」 田辺眞人(園田学園女子大学)「湊川流域の歴史から」
平成13年度（2001）	7月7日	発足総会・記念講演会	会長；神吉和夫（～平成20年3月）　事務局長；本地真穂（～平成16年3月）
			講演；田辺眞人（理事）「明治の三大土木事業～神戸のまちかどの歴史から」
	「大成建設自然・歴史環境基金」への助成申請と採択（10月31日通知　50万円））		
	11月18日	一般公開	新湊川ウォーク（神戸県民局主催行事）　※11月18日＝「土木の日」
	3月23日	総会・講演会	講演；久武勝保（監事・近畿大学工学部教授）「トンネルの作り方」
平成14年度（2002）	5月18日・19日	神戸生活創造フェスティバルin神戸2002において湊川隧道のパネルを展示	
	7月7日	講演会	講演；桑田優（副会長・神戸国際大学経済学部教授）「兵庫の開港と外国人居留地について」
	10月20日	湊川隧道見学会（会員対象）	案内；馬場俊介・久武勝保
	11月4日	一般公開	新湊川災害復旧事業竣工記念行事
	3月23日	総会・講演会	講演；土井敏男（神戸市立須磨海浜水族園「神戸の淡水魚～新湊川の自然を考える～」
平成15年度（2003）	ひょうごはーとふるふぁんど」への助成申請と採択（9月3日通知　23万円）		
	7月13日	講演会	講演；馬場俊介（顧問・岡山大学環境工学部教授）「全国の近代土木史の現況について」
	9月24日	事前湊川隧道学習会（第1回）	第2回；10月24日
	11月30日	一般公開＆ミニコンサート	隧道内での初めてのミニコンサートを実施
	3月21日	総会・講演会	事務局長；市成準一（～現在）
			講演；伊勢田史郎（詩人・前神戸芸術文化会議議長）「大和田泊と清盛の夢」
平成16年度（2004）	4月24日	新湊川河川防災ステーション（新湊川ふれあい会館）竣工	
	7月19日	講演会	講演；沖村孝（神戸大学都市安全センター教授）「六甲山系の土砂災害と新湊川の地盤特性」
	9月12日	一般公開	第1回新湊川まつり（主催；新湊川を守り育てる会）
	11月3日	一般公開	新湊川ウォーク（石井ダム試験湛水開始記念行事）
	3月20日	総会・講演会	講演；島田誠（アートサポートセンター神戸）「隧道の記憶」
平成17年度（2005）	7月18日	講演会	講演；西澤英和（京都大学工学部建築学科講師）「戦前の近代建築の耐震性を考える」
	11月3日	一般公開	新湊川ウォーク（神戸電鉄主催）
	11月23日	一般公開	「新開地生誕100年・湊川隧道の饗宴」（神戸アートビレッジセンター主催）
	3月18日	総会・講演会	講演；櫻井春輔（（財）建設工学研究所）「岩盤内地下空間における新しい芸術と音楽」
平成18年度（2006）	4月	隧道内の通路が敷き砂利から木製の通路に改良された。	
	5月20日	定期一般公開(試行)	神戸県民局からの委託を受けて年間10回の定期一般公開を開始。(8月11日　記者発表)
	6月17日	定期一般公開(試行)	
	7月15日	総会・講演会	講演；小野田滋（鉄道技術総合研究所）「鉄道トンネルの文化史～それは神戸から始まった～」
	7月15日	定期一般公開	以後、8月19日、9月16日、12月16日
	7月23日	湊川隧道学習会（第1回）	第2回；8月19日、第3回；8月27日、第4回9月16日、第5回9月17日
	神戸県民局平成18年度「神戸地域団体活動パワーアップ事業」への助成申請と採択（8月16日通知　20万円）		
	10月1日	定期一般公開	第2回新湊川まつり（主催；新湊川を守り育てる会）
	〃	トンネル写真展・講演会	講演；西山芳一（土木写真家）「トンネルを撮る」
	10月21日	定期一般公開	近代化遺産全国一斉公開2006　※10月20日＝「近代化遺産の日」
	11月19日	定期一般公開	新湊川ウォーク（神戸電鉄主催）
	3月17日	定期一般公開＆ミニコンサート	「光と音のコラボレーション」神戸大学工学部・兵庫区歴史花回道ウォーク
平成19年度（2007）		定期一般公開	4月21日、5月19日、6月16日、7月21日、8月18日、10月20日、12月15日
		定期一般公開＆ミニコンサート	9月15日、11月17日
	7月15日	総会・講演会	講演；森本政之（神戸大学大学院教授）「音を科学する～暮らしの中の騒音と音楽ホールの響き～」
	3月15日	定期一般公開＆ミニコンサート	兵庫区歴史花回道ウォーク、神戸学院大学付属高校吹奏楽部
	3月23日	総会・講演会	会長；吾妻義信（～現在）
			講演；吾妻義信会長「湊川隧道保存友の会～地域の宝物～」
平成20年度（2008）		定期一般公開	4月19日、5月17日、6月21日、10月18日
		定期一般公開＆ミニコンサート	7月19日、8月16日、9月20日、11月15日、12月20日、平成21年3月21日
	10月19日	定期一般公開＆ミニコンサート	第3回新湊川まつり（主催；新湊川を守り育てる会）、弦楽四重奏
	3月4日	平成20年度国土交通大臣表彰「手づくり郷土（ふるさと）章」を受賞	
	3月21日	総会・講演会	講演；西田一彦（顧問・関西大学名誉教授）「歴史を生かす安全で美しい国づくり」
	3月21日	消防訓練	防火管理者（神戸土木事務所）の指導により実施
平成21年度（2009）		定期一般公開	平成22年1月16日、2月20日
		定期一般公開＆ミニコンサート	4月18日、5月16日、6月20日、7月18日、8月15日、8月22日、9月19日、 10月17日、11月21日、12月19日、平成22年3月20日
	8月1日	備品整理＆周辺清掃	
	1月22日	消防訓練	兵庫消防署の文化財防火デー広報訓練の一環として実施
	3月13日	総会・講演会	講演；南部真知子氏（㈱神戸クルーザー・コンチェルト代表取締役社長「港・神戸と私～人と人の出会い、心と心のふれい～　」
平成22年度（2010）		定期一般公開	10月23日、10月24日、11月18日（土木の日）、平成23年1月15日
		定期一般公開＆ミニコンサート	4月17日、5月15日、6月19日、7月17日、8月21日、8月28日、9月18日、 10月16日、11月20日、12月18日、平成23年2月19日、3月19日
	5月15日	神戸まつり「はっぴいひろば」参加	パネル展示、ビデオ放映、パンフレット配布
	10月10日	説明用パネル勉強会	参加者は、役員・幹事・スタッフ登録者
	〃	備品整理＆周辺清掃	
	3月13日	総会・講演会	講演；八ケ代信行（神戸歴史クラブ副会長）「資料で振り返る神戸の歴史一名所図絵・写真・絵葉書・地図から見える江戸末～昭和の神戸一」

平成22年度の活動報告

【平成21年度総会・講演会】

日　　時：平成22年３月13日（土）10：00～12：00
場　　所：新湊川河川防災ステーション内（新湊川ふれあい会館）
参加者数：約40名

総　　会

平成21年度活動報告・会計報告・監査報告、平成22年度予算案・その他

講　演　会

講演者：南部　真知子（㈱神戸クルーザー・コンチェルト代表取締役社長）
演　題：『港・神戸と私　～人と人の出会い・心と心のふれあい～』

南部講師は、社長職以外にも神戸市や各種団体委員会の委員など要職に就かれて活躍されている神戸を代表する女性経営者。お話は、南部講師と震災当時にドック入りして売却話のあった‘コンチェルト’（当時は、‘シル・フィード’）との運命の出会いがあったことの紹介から始まり、港、観光都市としての神戸の魅力をどのように発信するのか、そのしかけづくりはどのように、といった仕事以外でのご苦労や楽しさを活き活きと紹介していただきました。特に、一昨年の新型インフルエンザ禍での相次ぐ予約キャンセルというサービス業が大きな痛手を受ける中にあって、実名報道をめぐってはまさにマスコミとの闘いだったとのこと。幸せを感じること、支えあうこと、感謝すること、感動すること、貢献しあうことの大切さ、元気で生きることの喜びを熱く語っていただき聞く者に元気を与えていただきました。

※22年度総会・講演会（3月13日）では八ヶ代信行様の講演を予定しています

【神戸まつり協賛でなんでもコーナーに参加】

日　　時：平成22年５月15日（土）10：00～15：00
場　　所：湊川公園

第40回神戸まつり「はっぴいひろば」のブース展に「湊川隧道保存友の会」として参加し、説明パネルの展示や関係ビデオの放映、パンフレットの配布を行いました。初めての参加であり、展示や説明方法も要領を得ませんでしたが、立ち止まる参加者に声を掛けながらＰＲに努めるとともに、当日は、隧道の一般公開日でミニコンサートが開催されていましたので、午後からの見学を呼びかけました。来年の参加については未定ですが、多くの市民へのＰＲの場となるよう内容を検討してきたいと思います。

【勉強会＆周辺清掃・備品整理】

日　　時：平成22年10月10日（土）13：30～16：00
場　　所：夢野地区地域福祉センター・湊川隧道内及び周辺
参加者数：23名

役員＆スタッフ会議として、今年度の一般公開報告と10月から11月の行事予定の調整の後、勉強会と隧道周辺の清掃を行いました。勉強会は、佐々木副会長より、今年新たに作成された説明用パネルについて、資料「湊川隧道の展示パネルについて」を用いて説明を受けました。説明用パネルは、今までの資料に加え、新たに八ヶ代信行氏（神戸歴史クラブ）や神吉和夫先生（神戸大学）から写真や図面等を提供していただき、より充実した分かり易い内容になっています。勉強会の後、役員、スタッフ総出で湊川隧道周辺の清掃を行いました。10月でも、まだ残暑が残る中、みなさん汗だくになり、隧道周辺の草刈り及び清掃、備品・消耗品の整理整頓を実施しました。

■勉強会の状況

■清掃作業の状況と清掃後の隧道入り口

【一般公開＆ミニコンサート】

開催日	内　　容	出　演　者	入場者数	スタッフ数
平成22年３月20日㈯	ピアノ・歌・フルート	あんだんて	143名	12名
４月17日㈯	木管五重奏	ゴレンジャークインテット	197名	14名
５月15日㈯	クリスタルボウル	花音	214名	13名
６月19日㈯	クラリネット	新暁子・酒井舞子・中平沙希	189名	14名
７月17日㈯	三線・エイサー	美らさんず	103名	13名
８月21日㈯	歌・ギター	まるしん	62名	10名
８月28日㈯	フルート・ケーナ	木原ファミリー・福岡良一	91名	13名
９月18日㈯	キーボード	そらいろ楽団	68名	12名
10月16日㈯	弦楽四重奏	アマローネ・カルテット	78名	14名
10月23日㈯	【一般公開のみ】		28名	3名
10月24日㈰	【一般公開のみ】		58名	5名
11月18日㈭	【一般公開のみ】「土木の日」		55名	5名
11月20日㈯	フルート	南部やすか・大鶴幸子・曽我香織	144名	14名
12月18日㈯	オカリナ	鵞鳥クラブ	112名	12名
平成23年１月15日㈯	【一般公開のみ】		46名	8名
２月19日㈯	三味線	ねこ	82名	13名
合　　計			1670名	175名

※　３月20日は、22年度行事であるが、集計上の都合で23年度分として記載している。

平成23年度の行事予定

予定されている定期一 般公開とミニコンサートは、下記のとおりです。

開催予定日	内　　容	出　演　者	備　考
平成23年３月19日㈯	歌・胡弓	東方文化芸術団	（22年度行事）
４月16日㈯	木管五重奏	神戸市民交響楽団有志	
５月21日㈯	一弦琴	直海会	
６月18日㈯	ブラスバンド	夢野中学校	
７月16日㈯	詩吟	昭和会	
８月20日㈯	オカリナ	鵞鳥クラブ	
９月	未定(※)		
10月15日㈯	フルート・ケーナ	木原ファミリー	
11月18日㈮	【一般公開のみ】		「土木の日」
11月19日㈯	剣舞	鶴州流	
12月17日㈯	弦楽四重奏	神戸市民交響楽団有志	
平成24年１月21日㈯	【一般公開のみ】		
２月18日㈯	津軽三味線	静龍会	
３月17日㈯	ジャズ	富士通テンジャズバンド	

※9月に、神戸県民局主催による定期一般公開10周年記念行事が予定されています。
☆出演者の事情などにより、内容や出演者が変更される場合がありますのでご了承願います。
☆一般公開の時間は13：00～16：00、ミニコンサートの演奏時刻は13：30～、14：30～の２回を予定します。
☆23年度の総会・講演会は、平成24年３月に予定しています。

賛助法人会員紹介

㈱エイト日本技術開発・大成建設㈱・㈱建設技術研究所・社会福祉法人海光園
社会福祉法人神戸光有会・㈱サニー商工・菅野吉記・㈱千葉出版

湊川隧道保存友の会事務局

〒657-8501　神戸大学都市安全研究センター　「湊川隧道保存友の会」事務局　市　成　準　一
ＴＥＬ：090-5255-6288　ＦＡＸ：078-803-6394　http://www2.kobe-u.ac.jp/~midori/minatogawazuidou.html